

1. 本事業の目的

- ・これまで里山の環境保全を担ってきた地域の人材の新陳代謝を図る
- ・活用を見据えた里山環境保全の新しい仕組み、人の流れを作る

2. 里山が持つ課題

- ・各地域で里山保全団体の高齢化などにより、活動の維持が困難になっている。
次世代に繋ぐことが急務である。

3. 事業概要計画

①場所の選定について

南房総市はじめ全国で同じような課題を抱えているが、同時に支援していくことは難しい。今回は、安馬谷里山研究会と連携しながら里山保全のモデルを作っていく、成功事例を作る。ゆくゆくは市内の里山団体と連携しながら横展開していく。

②助成事業終了後の展開

「自走事業（活用）の計画」案（2年目以降）

- ・南房総市教育委員会が推進する「南房総学」でのフィールド活用
- ・野草、香料を活用した里山素材の商品化
- ・「癒し」をキーワードにしたセラピーツアー
- ・教育旅行の受け入れ

上記案を実施しながら収益事業が打てるような体制を整えていく。

③事業コンセプト

- ・安馬谷の里に人が入っていく仕組み作り
→共感性やストーリー性を作っていく

安馬谷里山研究会の代表横山さんがこれまでやってきたことを引き継ぎ、新しい里山の活用の仕方を融合させ、社会からの共感を得ていくことが重要。

- ・観光客の獲得より一緒に作り上げていく仲間作り、コミュニティの醸成する
→単純に楽しいだけでなく、環境に良いこと、
社会に良いことをしているという実感を得られる場にしていく

④予定事業案

「里山から学ぶ 里山実践ワークショップ」

環境改善、生き物・植物の調査、野草の調理、整備作業、樹木伐採等の里山に関する知恵を学ぶワークショップを開催する。

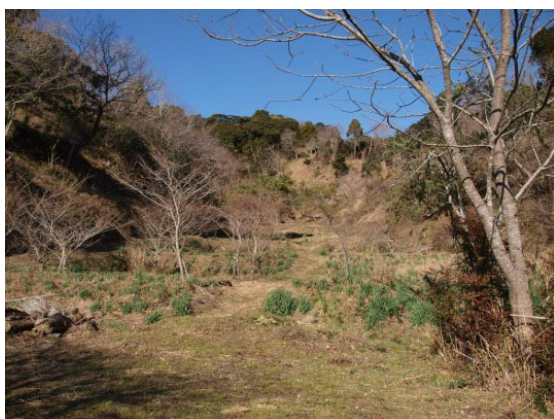
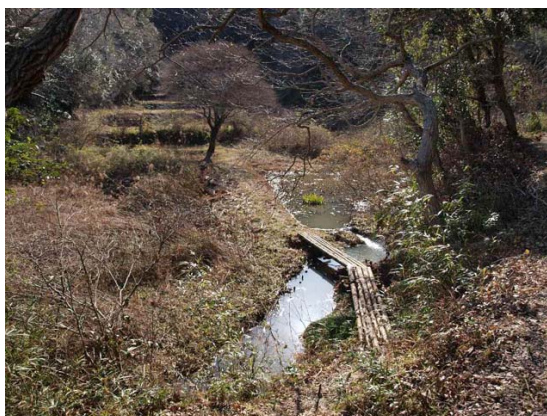
「ICT を活用したセルフガイドアプリ」

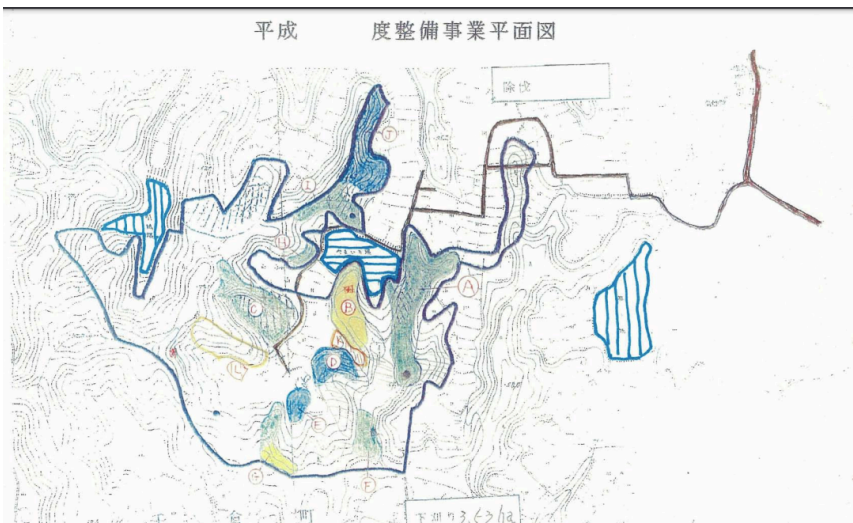
案内板の整備、マップの整備をワークショップ参加者とともに作りっていく。また、アプリ開発事業者と連携し、携帯のマップ上のポイントに行くと、案内板に QR コードがあり、解説が聞けるというソフトを導入することで、ガイドがいなくても楽しめるような仕組みを作っていく。一般の来訪者はもちろん学校の授業などでも活用できるような仕組みを導入していく。

想定アプリ「はなもく散歩」 <https://hanamokusanpo.jp/>

【補足資料② 安馬谷里山について】

千葉県南房総市丸山地区にある「安馬谷（あんばや）里山」は、市内7か所に設定された「セラピーロード」の一つで、森林環境を利用した癒やし効果を得られる散策路として「安馬谷里山の道」がある。整備を行っているのは「安馬谷里山研究会」で、平成10年に中山間地開発事業として桜を中心とした植樹をスタートした。平成15年に23人の参加者とともに安馬谷里山研究会を設立した。25年までに植樹した苗木は130種類の桜1500本、ツバキやミモザ、アカシア、ロウバイ、アジサイなど。活動は草刈りや苗木づくりなどを行っている。南房総市丸山地区の小中学校との記念植樹、道の駅ローズマリー公園での安馬谷里山写真展、子どもたちの里山保育や里山ごみ拾い、定期的な里山ハイキングを行っている。





【補足資料③ チェーンソーの必要性について】

整備を行っている安馬谷里山研究会は、会員各自が持ち出ししながら整備を行なっている。仮払い機、チェーンソー等は各個人の備品を持ち寄っているため、特定の会員しか作業することができない。本事業で備品や安全具を整備することで、安全で効率てきな作業を行うことができる。安馬谷里山のフィールドは急傾斜地もあり、安全帯や高所伐採を行うような器具も必要になってくる。

以下徹底して作業の実施にあたる

- ・ 伐採作業はチャップス、ヘルメットの着用を義務とする
- ・ 事前にチェーンソーや仮払い機の経験の有無を確認する
- ・ 未経験者は基本的に研修を受けてもらってから作業にあたる